

日時：2013/2/17（日）9:00~16:40

セッション 2、9:50~10:40「栄養・フットケア・CAPD」

研究会名：東京透析懇談会 代表幹事 秋澤忠男

会場：東京女子医科大学 弥生記念講堂

発表者：森下裕美

施設名：慶應義塾大学病院 血液浄化・透析センター

氏名：森下裕美 長濱里絵 中野玲子 坂上怜子 船戸初美 長澤千恵 水野谷悦子、
吉田理 菅野義彦、林松彦

【抄録】

<タイトル>

腎臓摘出術後の透析導入、腎移植後の透析再導入の2事例に対する 血液透析導入指導の成果

<目的>

特殊な状況で透析導入した2例への透析導入指導の詳細を明らかにし、看護介入により挙げられた成果を分析し、今後の透析導入指導に活かす。

<方法>

1. 対象：当センターで血液透析導入となった患者2名のカルテにある看護に関する診療記録。
2. 期間：2012/3/01~2012/08/1
3. 方法：上記患者の診療記録を分析し、看護介入の内容と成果を検討した。看護介入の内容を透析導入時期に沿ってまとめた。その内容・経過から効果的な看護介入・支援方法を考察した。
4. 倫理的配慮：個人が特定できないようにした。

<結果>

体調が安定してきた時期に血液透析療法の実際について説明することで、自分の身体状況や透析の必要性について理解を得ることができた。自分の体が治療を受けないと、維持できないことへの気持ちを、看護師と共有することができた。感情を表出したときに、自分の身体状況が急激に変化したこと、自分の身体への喪失感を訴えることに特色がみられた。その時期を経過すると、透析療法を今後の生活にどう組み込むかなど、現在の状況から前向きに考えることができた。

<考察>

慢性腎不全疾患からの透析導入患者と違い、2例とも自分の身体状況が急激に変化したこと、自分の身体への喪失感を訴えることに特色がみられた。齊藤は「透析導入期における 自己管理の認識の形成過程の特徴」を述べ、「感情的な揺らぎが生じたその時、認識が発展する機会となる事が考えられる」とある。A氏、B氏とも悲しみや怒りを表出する過程の中で、自己管理への認識が発展する機会となったと考える。今後、症例を重ねて、時期や介入内容、支援の方法など効果的に行えるよう検討していきたい。